

# 女性大工 で頑張る

浦野弥生<sup>さん</sup>(25歳)

(富山・榑白井大工)



このほど行われた技能検定で、晴れて一級技能士の資格を手にした、21歳の浦野弥生(みよ)さん。年々の実務経験が必要であるにもかかわらず、かなりの張りの連続だったけれど、「やっと取れました」と謙遜する横顔に、負けじ魂がちらりとのぞく。入

職後5年目の資格取得は、2級を取ってから4〜5

たこともあって、中学2年生の時に宮大工になりたと言ったんです。その父に、現代の技術を知っておかないと建築は出来ないから、高校ぐらいは行って専門を学べ、と言われました。そこで地元福岡県の高専で建築コースに進んだが、4年生の時に日本建築史を学んだのが、この

## 宮大工になりたい

5年  
目で女性1級技能士が誕生

道にのめり込むきっかけとなった。指導に当たった先生との出会いも大きかった、という。「4年生の時、福岡にあるお寺などを80社ほど回って様式の調査をするうちに、建築を見ることの面白さを学びました。そして迷わず、宮大工の門をたたく。富山県の



仕事をやってみたい、わかったこともある。仕事には向き不向きがあることを。初めのうちは「仕事をやめるぐらいなら、結婚はせんと」思っていたが、そうした気持ちも少しずつ変わりつつある。男と同じように出来ない仕事も、確かにある。長く続けられるように、自分に向く仕事を早くみつけて、その仕事でプロになろう、という気持ちも芽生えている。出来ないことは出来ない、ハッキリ言うようになった。「こういう私をこれから育ててくれて、親方にはよく採っていただいたと感謝しています」「学生時代は親に言われて、反発しながら弓道や茶道を勉強しましたが、これが今の仕事に役立っています、有難く思っています」とも。半纏姿で涼みなく話している様子も頼もしくもすがすがしい。「若い人が毎年入ってくるので、白けてはいられません」と話すその眼差しには、明日が映っているようだ。